

パルシステム東京 震災復興支援基金「パル未来花基金」
「組合員への助成活動レポート」

震災復興支援基金「パル未来花基金」の助成を受けて、復興支援活動に取り組みました。その取り組みについて、組合員の皆さんにご報告します。

グループ名	NPO法人 福島こども保養プロジェクト@練馬 記録グループ
支援対象者・エリア	福島県
企画開催地	東京都練馬区
企画名称	福島の子どもの保養キャンプなど1年の活動報告作成事業
実施期間	2022年4月1日～2023年3月31日

支援活動の目的・内容・感想

(どうしてこの活動をはじめたのか、どのようなことに取り組んだのか、取り組んだ感想など)

★目的

2011年東京電力福島第一原子力発電所の事故後、福島県をはじめ放射線の高い地域に暮らしている子どもたちに、少しでも線量が低い地域でたっぷり外遊びをしてもらい、心身のリフレッシュをはかってもらいたいと考えている練馬区民が集まり、任意団体として2011年6月に設立。その後、より継続的な活動をするため、2013年9月にNPO法人化。

★今年度の取り組み

(保養キャンプ)夏の保養キャンプは2020年21年とコロナ禍で実施することができなかったが、22年8月には規模を小さくして実施することができた。福島市・南相馬市・いわき市から3家族12名を招き3泊4日のキャンプを埼玉県飯能市の大平ハウスで行った。事前に参加者・スタッフのPCR検査・直前の抗原検査を実施した。消毒や間隔をとった食事など感染対策を徹底した。広い庭での虫取りや川遊び。木工教室・音楽プログラム・花火など遠出をせず大平ハウス周辺で出来るもので十分に楽しんだ。食事は、スタッフを必要とする自炊を減らし、飯能地域の弁当やデリバリー、キッチンカーなどを活用し地域の活性化にもつながった。また、飯能市中郷地区の皆さんには川遊びの河原やスタッフの宿泊所、自治会館など気持ちよく貸していただき大変お世話になっている。

(その他の活動)

練馬区にある滞在型保養ハウスの福島からの利用がコロナ禍前と同じように増えてきている。また、2023年1月には、震災・原発避難者はいまPart8「福島一内から外から一子どもたちの12年」の講演会を実施した。オンラインで福島県いわき市の「たらちね」の鈴木さん、当時郡山市で被災し現在は兵庫県に住む渥美藍さんを講師としてお招きした。会場から53名、ズーム参加15名の合計68名の参加があった。震災当時を振り返るとともに今後に向けての取り組みの課題を確認した。

(取組みと感想)

12月にNO4、今年の3月にNO5のニュースレターを発行、配布することができた。震災から12年がたつが、区内に住む避難者と滞在型保養ハウスで交流ができ、今後のつながりの一歩となっている。今後に向けて地域での「保養」の意義をとらえ、若い世代に伝えていくためにも活動を展開していきたい。

活動の様子（写真など）



2022年8月5日～8日

保養キャンプ

埼玉県飯能市

震災・原発避難者はいま PART 8

2023年1月28日 ココネリ研修室1にて

講演会 福島一内から外からー子どもたちの12年



※本レポートに掲載された写真はパルシステム東京ホームページ等で公開させていただきます。予めご了承ください。